

平成 23 年度科学・技術関係予算についての意見募集結果  
(24109：地球環境変動研究)

ご意見の概要	件数
このまま推進すべき	25件
改善・見直しをした上で推進すべき	6件
推進すべきではない	0件
その他	0件
合計	31件

【主なご意見】

二酸化炭素などの温室効果ガスの排出によって、大気全体の温暖化が予測されているが、大気よりも熱容量がはるかに大きい海洋の役割、および海洋 - 大気間における熱や二酸化炭素の交換過程については、まだ十分に理解できておらず、温暖化予測を行う数値モデルにおいてもそれらの表現はまだ適切とはいえない。このため実態把握としての観測研究と、そこで得られる知見に基づくモデル開発は不可欠であり、継続して実施する必要がある。

「様々なスケールにおける水・熱・物質循環観測研究」が掲げられており、衛星による広域観測ネットワークは重要であるが、急激な生態系開発等が気候変動と絡んで生じる環境変動予測の不確実性を減少させるには、流域試験地での長期かつ詳細な観測および操作実験に基づくプロセスモデルの開発が、むしろ最優先課題である。環境同位体などの最新物質動態追跡ツールを組み込んだスーパーステーションを、国内海外同時に構築ささえることを急務としたい。

一部の機関や大都会の研究機関にのみ先端機器の利用機会が偏り、地方にあってはアイデアを活かす機会もない。また議論の機会も地方にあっては少ない。大学との積極的連携を軸としたオールジャパン型の研究推進を行ってほしい。このような状況を変えるために、大学にサテライトを構築したり、人的交流を行うべく、予算編成を行ってほしい。